

2021年1月31日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**
第63巻第43号(通算3220号)
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:15-10:30 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう
週報

教会標語

かみさま つか
神様が創られたすべての命を
たいせつ きょうかい
大切にする教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

谷はすべて埋められ、山と丘はみな低くされる。曲がった道はまっすぐに、
でこぼこの道は平らになり、人はみな神の救いを見る。(ルカによる福音書3:5-6)

こうたんせつ だい しゅじつれいはい
降誕節 第6主日礼拝

《**新型** **コロナウイルス**の**感染防止**に**留意**しながら**礼拝**を行います。インター
ネット**中継**をしておりますので、ご**自宅**でも**共に**礼拝をして頂きます》

ぜん そ う もくとう
前 奏 黙 祷

まね ことば しょ
招きの詞 イザヤ書

さんび か ばん
賛美歌 21-289番「みどりもふかき」(©著作権消滅)

せい しょ ふくいんしょ
聖 書 マタイによる福音書 4章23節-5章12節

いの
お 祈 り

さんび か ばん うつく だいち
賛美歌 21-424番「美しい大地は」(©JASRAC)

しあわ
メッセージ「幸せはどこにある？」 牛田 匡 牧師

さんび か ばん わたし
賛美歌 21-563番「ここに私はいます」(©JASRAC)

しゅ いの ばん てん わたし ちち きょうだんさんびかいいいんかい
主の祈り 21-62番「天にいます 私たちの父」(©教団讃美歌改訂委員会)

たんじょうしゃしゅくふくしき
誕生者祝福式 (*)

ささげもの
献 げ 物 (**)

は けん ばん かみ めぐ う せつ
派 遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

しゅく ふく うしだ ただし ぼくし
祝 福 牛田 匡 牧師

こう そ う ばん きょうだんさんびかいいいんかい
後 奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©教団讃美歌委員会)

ほう こく ページ さんしょう
報 告 (4頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* みんなで 1月生まれの方 (と今年度12月までにお生まれの方) をお祝い
いたします。ご遠慮なさらず、どなたでもお申し出ください。

** 「献げ物 (献金)」は参加費ではございません。

うけつけ けんきんばこ ようい かた ささ
受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 ^{ことば} イザヤ書 30章 21節 (聖書協会共同訳)

21 あなたが右に行くときも、左に行くときも

あなたの耳は、背後から「これが道だ、ここを歩け」と語る言葉を聞く。

聖書 マタイによる福音書 4章 23節-5章 12節 (聖書協会共同訳)

4²³ イエスはガリラヤ中を回って、諸会堂で教え、御国^{みくに}の福音を宣べ伝え、民衆のありとあらゆる病気や患^{わざら}いを癒やされた。24 そこで、イエスの評判がシリア中に広まり、人々がイエスのところへ、色々な病気や痛み^{あくれい}に苦しむ者、悪霊に取りつかれた者、発作に悩む者、体の麻痺^{まひ}した者など、あらゆる病人を連れて来たので、これらの人々を癒やされた。25 こうして、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、さらにヨルダン川の向こう側から、大勢の群衆が来てイエスに付いて行った。

5¹ イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが御もとに来た。2 そこで、イエスは口を開き、彼らに教えられた。

3 「a心の貧しい人々は、幸いである
天の国はその人たちのものである。

4 悲しむ人々は、幸いである
その人たちは慰められる。

5^b へりくだった人々は、幸いである
その人たちは地を受け継ぐ。

6 義に飢え渴く人々は、幸いである
その人たちは満たされる。

7 ^{あわ}憐れみ深い人々は、幸いである
その人たちは憐れみを受ける。

8 心の清い人々は、幸いである
その人たちは神を見る。

9 平和を造る人々は、幸いである
その人たちは神の子と呼ばれる。

10 義のために迫害された人々は、幸いである
天の国はその人たちのものである。

11 私のために人々があなたがたを ^{のし} 罵り ^{はくがい} 迫害し、ありもしないことで悪口^{あっこう}を浴びせる時、あなたがたは幸いである。12 喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報^{むく}いがある。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」

(脚注 a：直訳「霊において貧しい人々」、b：別訳「柔和な」)

【参照】 本田哲郎訳『小さくされた人々のための福音』より

3 心底貧しい人たちは、神からの力がある。

天の国はその人たちのものである。

4 死別の哀しみにある人は、神からの力がある。
その人は慰めを得る。

5 抑圧にめげない人は、神からの力がある。
その人は地を受けつぐ。

6 解放に飢え渴く人は、神からの力がある。
その人は満たされる。

7 人の痛みが分かる人は、神からの力がある。
その人は自分の痛みを分かってもらえる。

8 心を澄ませている人は、神からの力がある。
その人は神を見る。

9 平和のために働く人は、神からの力がある。
その人は神の子と呼ばれる。

10 解放をこころざして迫害される人たちは、
神からの力がある。
天の国はその人たちのものである。

メッセージ「すぐそばにある福の音」より

聖書：ローマの信徒への手紙 1章 8-17節

教会では「福音（^{ふくいん}良い知らせ）」という言葉をよく聞きますが、これは元々は戦争の勝利を伝える言葉だったそうです。それが後にローマ帝国の初代皇帝アウグストゥスは「神なるアウグストゥスの誕生の日は、この世における福音の始まりである」と碑に刻ませました。イエス様やパウロが生きた時代の「福音」とは、そんな軍事力による帝国支配を意味していたわけです。そのような時代に、パウロは全く別の「イエス・キリストの福音」を告げ知らせました。

今回の聖書「ローマの信徒への手紙」は、パウロが、まだ訪問したことのないローマの教会に対して、書き送った手紙です。パウロは私には全ての人に福音を告げ知らせる責任がある、ぜひローマにいるあなたがたにも告げ知らせたいと言っていますが、彼がそれだけ伝えたいと願っていた福音とは一体何だったのでしょうか。歴史の中を歩まれたイエス様が示された「福音」の中心とは、「いつでも神が共にいて下さること」と、「無条件で徹底的な愛とゆるし」の2つだったと考えると考えられます（青野太潮）。そして福音書に記されているイエス様の言葉と振る舞いは、一貫してその2つを身をもって告げ知らせる歩みでした。神様の正義は、私たち自身が神様が共にいて下さり、赦し支えて下さっているという福音に信頼して、低みに立って歩みを起こせば起こすほど、身をもって明らかにされてくるとパウロは記しています（本田哲郎訳）。そこにこそ神様と共に生きる、新しい命、生活があるということなのでしょう。

さてイエス様やパウロから約2000年を経た今、私たちにとっての福音とは何でしょうか。コロナで苦しんでいる世界中の人々、とくに医療現場で働いておられる医療従事者の方々にとっては、ワクチンや治療薬が福音なのかもしれません。しかし、神様は人間の思いや価値観を越えて働かれます。イエス様の十字架とその死からの引き起こしに代表されるように、人の目から見れば、無力で、愚か、恥でしかないものを、強く、賢く、救いへと変えられます。福音はどこにあるのか。福音はすぐそばにある……。いつも私たちと共にいて下さって、赦し支えて下さっている神様の働き。人が目を注がないような場所にこそ現われる神様の福音。そんな「福の音」に信頼して、私たちも神様と共に低みから歩みを起こす者へと、変えられ、導かれて行きます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



LINE 公式アカウント



